

梅雨明け早し！  
出穂はやや早まる見込み



### 1. コシヒカリ生育調査結果(6月30日現在)

◆ 気象感应圃 新発田市農業サポートセンター

田植日：5月11日

項目	本年値	前年比	指標値比・差	※調査について
草丈(cm)	53	108%	108% (やや長)	【草丈等数値】 新発田市下羽津気象感应圃
茎数(株/本)	473	90%	105% (並)	
葉数	9.5	-0.1 葉	-0.2 葉 (並)	【指標比・差】
SPAD	35.2	-1.5	-3.3 (淡い)	5月10日以降の適期移植の理想生育との比較

### 2. 出穂予想(6月30日現在：新発田市農業普及指導センター)

早生、コシヒカリとも平年比2日程度早い見込み

早生は遅れずコシヒカリは確実に穂肥(追肥)！穂肥は稲の生育状況を十分確認したうえで施用を検討しましょう。

品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥窒素量合計(kg/10a)	穂肥時期		湛水管理開始時期
				1回目	2回目	
五百万石	6月30日	7月21日	1~2	7/1 (-20)	7/11 (-12)	6/27 ~
ゆきん子舞	7月1日	7月23日	5~6	6/28~6/30 (-25~-23)	7/9 (-14)	6/29 ~
つきあかり	7月2日	7月24日	5~6	6/29~7/1 (-25~-23)	7/10 (-14)	6/30 ~
こしいぶき	7月2日	7月25日	2~3	7/2 (-23)	7/11 (-14)	7/1 ~
コシヒカリ	7月12日	8月4日	1~3	7/17~7/20 (-18~-15)	7/25 (-10)	7/11~
新之助	7月23日	8月12日	1~3	7/23~7/27 (-21~-18)	8/1~8/3 (-12~-10)	7/24 ~
あきだわら	7月23日	8月15日	5~6	7/21~7/23 (-25~-23)	8/1 (-14)	7/21~
わたぼうし	6月30日	7月22日	2~3	6/30~7/2 (-23~-20)	7/10~7/12 (-12~-10)	6/28 ~
こがねもち	7月7日	7月30日	1~3	7/12~7/15 (-18~-15)	7/21 (-10)	7/6~

◆ コシヒカリ、こがねもちは5月10日頃移植、その他品種は連休移植を基準に予想したものです。

◆ 出穂期は今後の気象状況により前後しますので、ほ場ごとの幼穂や葉色を確認するなど生育診断を実施し適正な穂肥を施用しましょう。

◆ 「新之助」は各自の調査結果や新之助研究会の情報などを参考としてください。

### 3. 生育診断と適正穂肥

生育診断に基づく適期穂肥施用は食味・品質を良好にし、収量を安定させます!!

コシヒカリ では出穂前18日と10日

こしいぶき では出穂前23日と14日の2回分施が基本となります。

1回目の穂肥は ① 有効茎歩合を高める ② 粒数を確保する

※ 1回目の施用が早すぎると下位節間が伸長し、倒伏の危険が高まります。

2回目の穂肥は ① 稔りの良好化 ② 千粒重の増大

※ 2回目の施用が遅すぎると玄米タンパク質含有量が高まり、食味の低下につながります。

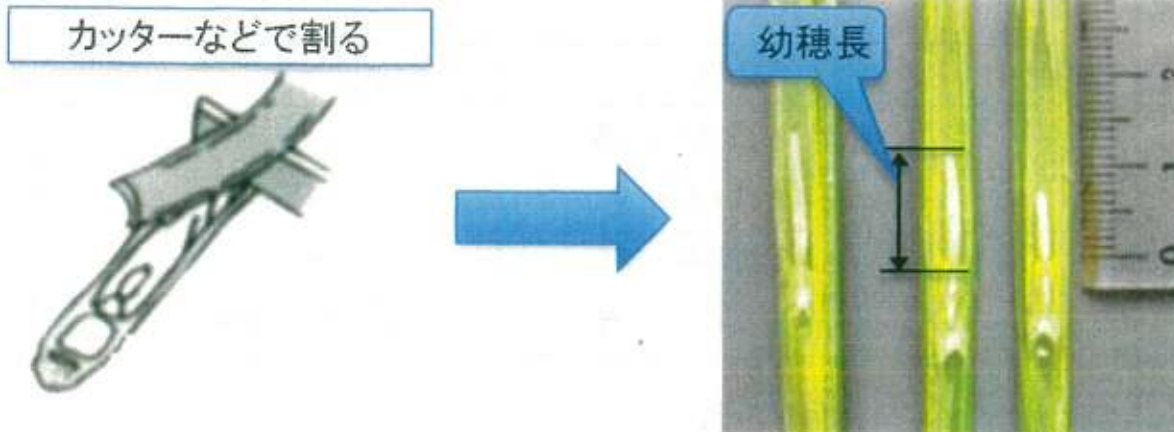
葉色が極端に低下しない限り出穂前10日以降の施用は控えましょう。

#### (1) 穂肥診断の方法

◆ 穂肥の施用にあたっては、草丈・茎数・葉数・葉色等の診断並びに幼穂形成期を的確に把握する必要があります。幼穂形成期が近づいたら必ず幼穂の状態を確認しましょう。

◆ 幼穂長1~2mmの時が幼穂形成期で、出穂前23~25日に当たります。幼穂長が1cm程度であれば出穂前約18日になります。ただし、この日数は気温が高いと短縮するため、幼穂形成期以降も幼穂長を確認し、適期に穂肥を施用しましょう。

#### (2) 幼穂長から見た出穂前日数と発育過程



幼穂の長さ	出穂前日数	幼穂長・外形ほか	発育過程	備考
1mm~2mm	23~25日前	幼穂2ミリまでは伸びが遅い	幼穂形成期	早生品種の穂肥時期(1回目)
5~10mm	18日前	止葉が出始める	花粉母細胞分化	コシヒカリの穂肥(1回目) ※有機100%の穂肥はこれより5~6日早く散布する
4~6cm	12日前		減数分裂期	早生品種の2回目穂肥時期(14~10日前)
8cm	10日前	止葉(13枚目)と次葉(12枚目)の葉耳がかさなる(葉耳間長平均±0cm)		コシヒカリの2回目の穂肥時期 ※穂肥終了時期

## 4. おすすめ肥料一覧

品名	容量	成分 (%)				おすすめポイント	持ち帰り価格 (税込)
		N	P	K	その他		
北越後穂肥専用	20kg	12	5	8	苦土3	速効性チッソ、カリのほかリン酸、苦土もバランスよく含む肥料です。	2,770円
越後の輝き有機50穂肥	20kg	12 (化5.9)	2	8		特栽米、減減栽培に使用可能、有機由来窒素が6.1%	3,370円
硫化機安(穂肥)32号	20kg	14	4	14		化成なので効きが早く、窒素1キロ当たりの費用も安い。	2,560円
α有機246ネオ	20kg	12 (化8.5)	4	6	苦土3	化学由来窒素と有機由来窒素が混合。両方の良さを発揮します。	3,250円
味好2号	20kg	7	2	7		有機100%肥料。地力増進効果も特栽や減減におすすめです。	3,250円
おてがるくん	20kg	12	5	7		流し込み肥料。大区画圃場などの施肥作業が軽減できます。	3,190円
流し込み穂肥301	10kg	30	0	10		水口から流し込むことができる省力的な肥料。(地力や稲姿によって加減する)	1,310円

- ・施肥ムラ防止のため、止め水(浅水)してから施用しましょう。
  - ・稲体の葉ヤケを防ぐため、降雨直後や稲体に朝露が付着しているときは控えましょう。
  - ・穂肥施用の最終は、出穂の10日前をめやすに施用しましょう。
  - ・後期の栄養凋落が大きい圃場では、有機入り穂肥を施用し後期栄養の持続に努めましょう。
- ※ 有機由来窒素を含んだ肥料を施用する場合は、化学窒素肥料に比べ散布時期が早くなりますので下記表を参考にしてください。

有機由来の窒素割合	肥料名	化学窒素肥料より早める日数
20%以下	北越後穂肥専用	同等の時期
30~40%	α有機246ネオVa	1~2日程度早める
50~60%	越後の輝き有機50穂肥	2~3日程度早める
100%	味好2号	5~6日程度早める

### 【基肥一発肥料における穂肥対応】

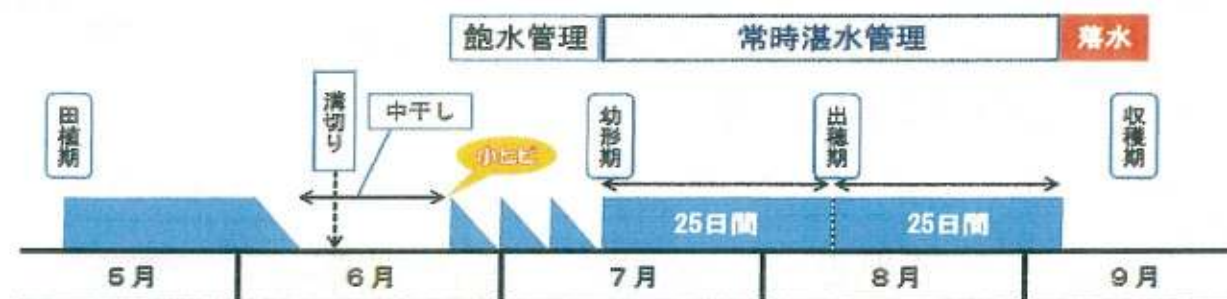
基肥一発肥料は基本穂肥施用の必要はありませんが、生育状況によっては多少の穂肥を必要とする場合があります。元々後期栄養が持続しない低地力ほ場、又は極端に葉色がさめている。基肥一発肥料の施用量が少なかった。このような場合、後期栄養を重視し下記を参考に穂肥施用を検討しましょう。

《参考》◆ コシヒカリ出穂10日前の葉色と追肥の目安

使用する肥料	SPAD値	葉色板	施用時期	施用量
化学肥料	32以下	4.2以下	出穂10日前	チッソ1.0kg
有機窒肥料(有機由来100%)	34以下	4.5以下		チッソ1.5kg

## 5. 出穂期の水管理

【コシヒカリの水管理イメージ】



**カドミウム吸収抑制対策として出穂前後25日間は湛水管理を実施しましょう。**

出穂期前後(幼穂形成期から登熟期)は稲にとって最も水を必要とする期間です。高品質・良食味米生産米にとって最も重要な栽培管理のポイントの一つです。

但し湛水管理期間中、高温が続く場合は水温上昇による「根腐れ」が心配されます。可能な限り水交換を行い根の健全化に努めましょう

## 6. 斑点米カメムシ類について

斑点米カメムシ類による斑点米発生防止～イネ科雑草で多し！～

- 一斉草刈り期間に合わせ除草を行うことにより、斑点米カメムシ類の発生を減らしましょう。



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソミドリカスミカメ



オオトゲシラホシカメムシ

カスミカメムシ類はメヒシバ、ナギナタガヤ、エノコログサ、スズメノテッポウ等のイネ科雑草を好んで寄生し増殖します。イネ科雑草が出穂しない間隔で草刈りをくり返すことで、斑点米カメムシの増殖を抑え、水稻の出穂期以降の水田侵入量を減らすことができます。

- 斑点米カメムシの主要加害種のうち、カスミカメムシ2種(アカヒゲ、アカスジ)の発生量は斑点米の発生に大きく影響します。

草刈り重点推進期間【第2回】

**7月15日(金)～7月31日(日)**

農道畦畔の草刈りはカメムシの餌となる雑草が結実しない間隔(約3週間)で計画的に実施しましょう！  
8月以降も適宜草刈りを実施しましょう。